



佐久市立望月小学校
学校だより



令和5年(2023年)

11月17日(金)

(担当：校長)

11月(なかよし旬間)の校長講話から

11月の校長講話
令和5年11月15日(水)

テーマ:「ちがい」から生まれるもの

話の内容

- ① 上野昭久さんの生き方
- ② 望月小のいじめ
- ③ 自然が教えてくれるもの(JM)

紅葉は
気温のちがいが大きいほど
きれいになる

ジャンプの問題
いろんな人がいて
「ちがい」がいっぱいの
望月小はどうなる？

ドウダンツツジ

今回も校長講話の感想を紹介します。子どもたちの感想から講話の内容や子どもたちの感じ方、考え方のよさをお伝えできればと思います。

違いがないと誰が誰かが
わかんなくなる。
違いがあるとわかりやす
い。
(3年 [redacted])



→ 日常生活の中から「わかりやすさ」に着目したところがいいですね。

いのちは、じぶんにとつ
つしかない、たいせつなも
のということがわかった
し、いじめはぜったいにや
ってはいけないことがわか
った。(3年 [redacted])



→ 命は「じぶんにとつしかない」と実感したところから「いじめは・・・」と気づいたところがいいですね。

命の駅伝では、「いじめや差別をなくすためにみんなが頑張っているんだな。」と思いました。私も、いじめや差別をせずいじめをされている子に寄り添ってあげたいです。
望月小は違いがいっぱいあって、その違いで喧嘩が起きちゃうこともあるけど、その違いで仲直りすることがあるので、良い感じにバランスが取れているのだと思います。
(4年 [redacted])



→ 命の駅伝の取り組みから「みんなが頑張っているんだな。」と感じ、自分も「いじめや差別せず・・・」と考えたところがいいです。

今日の話聞いて僕は、いじめや悪口はしてはダメなことだとわかりました。**自分は悪口を言っていないつもりでも相手、友達には悪口に聞こえてしまう。**僕ももしかしたら言っているつもりはないけど、どこかで友達を傷つけちゃったかもしれません。
今日の話聞いて**たった一言で友達を傷つけてしまう!**ということがわかりました。
(4年 [redacted])



→ 「ぼくももしかしたら・・・」と、相手の立場になって自分の言葉を見返しているところがいいですね。

私はいのちの駅伝のメッセージを聞いて、**いじめ・差別はこの社会にとって絶対にあってはならない**と改めて思いました。なぜならいじめとかは最悪人の命を奪うことだってできるし、その一言で多くの人が傷ついてその人の心の中に一生残ると思うからです。**私はたまたま友達を傷つけちゃうことがあったので、それをなくしたい**です。
最後に児童代表の言葉を聞いて、いじめは絶対にあってはならない、なくさないといけないので、**頑張り**たいです。そしてもし、誰かがいじめられていたら、**私がそばに寄り添っていき**たいと思いました。
(4 [redacted] 年)



→ 「私もたまたま友達を傷つけちゃうことがあった」と振り返り、いじめをなくそうと考えているところがいいです。

ジャンプ問題の答えは「もっと進化していく」だと思います。理由は、望月小には沢山の人がいて、それぞれ違いがあるから。例えばもちっこ祭りだったら、**色々な人が意見を出し合えば最高のもちっこ祭りになる**みたいに、**色々な人の意見を聞いていけば、望月小はもっと進化していく**と思ったから。

考えたことは、命の駅伝の感想でもあったように、**たった一言で苦しい思いをする人もいるから、相手が嫌がる事を言わないのを大切にして**いって、望月小からいじめを少しでもいいから無くして行きたい。

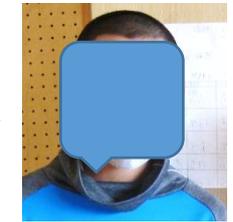
(5年



→ 色々な意見によって「望月小はもっと進化していく」と考えたところがいいですね。

ジャンプ問題の僕の考えは、**一人ひとり違うことはいいこと**だと思います。何故かと言うと、同じ意見だけや、同じ考えしか生まれないのは、つまらないけど、**他の意見があると、安心感が湧いたり、少し面白かったりする**からです。他の意見や、他の提案、**自分では思いつかない考えがあるかもしれない**からです。それで**想像の幅が広がったり、独特な発想や、自分っぽい発想が生まれたりする**かもしれないからです。だからひとりひとり違うことはいいことだと思います。

(5



→ ちがいがあることのよさを「想像の幅が広がったり、独特な発想や、自分っぽい発想が生まれたりする・・・」などと着目したところがいいですね。

今日の命の駅伝メッセージの感想発表、校長講話を聞いて、みんな命の駅伝メッセージの感じ方も違うし、印象の残り方も人それぞれで、朝発表してくれた人は、どうしたらいじめ・差別をなくすることができるか、望月解放子ども会ではどんな取り組みをしていてどうしたいかなど、**自分の思うことだけでなく、周りの人のことも考えて感想をかけていてすごい**なと思いました。

私は、命は一人一つで限りのあるもので人の悪口やかげぐち、暴力で命をたってしまう人がいては、そのままでは、また同じようなことが起きてしまうかもしれないと自分で考え、**身の周りの人を大切にしたい**と思いました。

また、ジャンプ問題の答えは、人にはそれぞれ**性格の違う人が自分の周りにいるから、人と人の気持ちのずれ違いが起きたりするけど、逆に友達ができるし、大切な存在にもなる**。人それぞれ違うから自分の性格と合わない人もたくさんいるけど、**人と人の違いは大切だ**と思いました。人は、喧嘩をして仲良くなれる存在と思う人もいれば、そうは思えない人もいるけど、私は、喧嘩をするから相手がどうしたいかなどわかるし、相手がどんな人かわかるので、お互いわかりあって、友達をたくさん作り、いじめや、差別が起こらないようにしたいです。

(5年



→ 発表を聞いて、自分のことだけでなく周囲の人のことを考えるよさに気づいているところがいいですね。また、人はちがいをわかりあうことで**大切な存在になる**ことにも気づいています。

私はジャンプ問題の答えは「**違いがあるから逆にその違いがみんなの彩りになる**」と思いました。理由は2つあります。1つ目はいのちの駅伝の始まりはいじめや差別をされて命を失った人がいるということでした。でも、逆に違いがあるから「**みんな違ってみんないい**」のように、違いがあるから差別をするのではなく、**違いがあるからみんなの色々な意見が集まる**と思うからです。

2つ目は5年2組は全校で一番人数が多いクラスです。人数が多いからといって、いじめや差別が許されるわけではありません。だけど、**人数が多いからこそ、みんなで協力して、みんなの違い（彩り）を合わせればいじめや差別がなくなる**と思ったからです。だから、私は**違いはその人の彩りだから、絵の具のようにみんなの色を混ぜて全校でいじめや差別をなくして**いきたいです。

(5年



→ 「違いがあるから逆に・・・」「人数が多いからこそ・・・」とそのよさを生かそうと考えたところがいいですね。

発表してくれた人たちとか解放子ども会の人たちの話を聞いて、あらためていじめは**だめだなー**と思ったし、「上野昭久さんの生き方」で校長先生が話してくれた**上野昭久さんの生き方は凄いなー**って思いました。

(5年





上野昭久さん

NPO法人未来工房もちづき代表

- ・3年生の地域探検案内
- ・望月小唄など地域の伝統文化の保存

聖書の言葉

すべて最後に残るものは、自分が得たものでなく、人に与えたもの

上野さんは望月の地に、また人の心にたくさんのものを残した

→ 上野さんの生き方を知って「すごいなー」と共感しているところがいいですね。